

研究課題：バイオサイエンスの時代における人間の未来

▼目的：

生命工学や生命科学の進展は、これまで自明視されてきた「人間」をとりまく意味や価値を大きく変容させている。こうしたバイオサイエンスの影響を哲学・思想・社会・文化の問題としてとらえ、**新たな人間像を探究**する。

生命工学
生命科学

テクノロジーを媒介した「生」

特徴②：3つの観点からアプローチする**基礎的研究**
テクノロジーを媒介した「生」・人間的価値の変容を複眼的にとらえる。



人間像のとらえなおし

特徴①：**文理融合の横断的研究**

大阪大学の研究リソースを活かし、科学技術のインパクトを社会現象の総体として考える。

ジェンダー/環境論
優生学・クイアスタディーズ
・環境・生態系の知

身体・テクノロジー
科学技術・医療・経済・
メディアの知と教育

原理論
生権力論・生命倫理・生命
の哲学・老年学・死生学

人文学

バイオサイエンスの時代における人文学研究基盤の確立

研究課題：バイオサイエンスの時代における人間の未来

概要：人間の生に直接関わる**技術的な介入・知の諸形態の変化**は、政治や倫理、社会規範のあり方に重大な問いをなげかけている。私たちがあたりまえに「人間的」と考えてきた状況（その価値や意味）は、サイボーグやロボット、遺伝子改造、先端的な医療実践に代表されるテクノロジーの登場によって、あらためて人文学の課題となる。本プロジェクトでは、個別分野の垣根を越えた共同研究体制のもと、バイオサイエンスの時代に求められる**人間像を探究**する。

特徴①：文理融合の横断的研究

大阪大学の研究リソースを活かし、科学技術のインパクトを社会現象の総体として考える。

脳科学や先端医療の実践は、「正常な人間」とそうでない人間をどのように切り分けるのか？それは、私たちの社会全体の問題である。大学が生み出す技術や知識は、こうした問題にどう関わっていけるのか？

特徴②：3つの観点からアプローチする基礎的研究

テクノロジーを媒介した「生」・人間的価値の変容を明らかにする。

- ・**ジェンダー／環境**：サイボーグに性はあるのか？人工物に満ちた環境は「自然」と呼べるのか？など。
- ・**身体・テクノロジー**：介護ケアに用いられているロボティクスの技術が人間の脳や細胞にまで置き換えられるようになったとき、どこまでが「人間の身体」と呼べるだろうか？など。
- ・**原理論**：選択された遺伝子情報をもつ「優れた生命」の存在は倫理的なのか？など。

成果：国内外の主要な研究機関との連携、グローバルな情報発信を通じて、科学技術と人間の関係を問い直す**先端的な人文学研究の舞台を整備**する。